

刊夕日三十月五

常警每日新聞

定価一冊五錢
 廣告料五錢
 日曜祭日の日休刊
 発行所 常警毎日新聞社
 電話 六二〇〇番

三界は心が造る

眞繼 雲山

悟りを開くには漸教と頓教とがある。漸教といふのは段々に一階づつ進んでゆくことであり、頓教といふのは夢から覺めたときのやうに豁然として悟るのである。忙しい現代人に取つては出来ることなら後者の方が手ツ取り早くよい。

それには『三界唯一心、心外無別法』といふ法相宗の所談などは詭へ向の法門である。

その所談とはこの世のなか森羅万象一切の事物、出来事はすべて我が心の造作するところであつて、心の外に何物もないといふ説であるが、われ／＼凡夫にはどうもさういふ風には考へられない。

私たち人間には見たり聞いたり、かいたり味はつたり觸つたり考へたりといふ眼耳鼻舌身意の六識ありといふことは、生理學でも認めらるし佛敎でもこれをいふ。但し生理學はこの六識が行き止まりとなつてゐるから死んでしまへばアトには何にも残らない事となる。アツツサリしてゐてよいにはよいが、そこに宗教はない。それが科學の終点である。佛敎では以上の六識の外

に第七、末那識。第八阿賴耶識を加へて合計八識と立てる。

末那識とは梵語、譯して染汚の義となり、執持の意となる前六識はたゞ見たり聞いたり味はつたりするだけであつて、それは事實を事實の通りに意識するに止まる。

第八、阿賴耶識とは、識を藏して没することなき貯藏所の如く、春夏の縁を待つて芽を吹かんとする種子の倉庫にあるの狀であつて固より自他染淨の差別はない。謂はゆる未來藏であり眞識である。

然るに美人を見て染着を生じたり、美香をかいで我執を生じたりするといふのは、ひとへに前六識の運搬し來る現象を我れありとして取り込まうとするはたゞきの致すところであつて、語を換ゆればこの末耶識が煩惱村の村長であり司令官でもある。人間とはこの末耶識先生が眼を三角にしたり、黄色い聲を張り上げたりして力戰奮闘してゐる結果の動物に外ならない。

それ以外に『これが我が身』といふてつかみ得べき本體はない。謂はゆる無我といふが正味である。

然るに私たち人間はこの五尺の肉體が可愛いばかり

に日夕辛勞してゐる。名利の大山に迷惑するといふのも生死の大海に溺没するといふのも畢竟するに我れありとする我執が基本となつてゐる。詮じつめると、識が肉體を支配してゐるといふ姿以外に我れなるものは何んにもない。

神社佛閣といひ、國寶珠玉といひ、書畫骨董といひ、少なくとも千年や二千年は残るのに、人間ばかりはたか／＼六七十年もすれば煙となり、灰となつて消えてしまふことは如何にも果敢ない話である。

あの 大聖釋尊でさへ跋提河畔に涅槃を示され、天冠寺で茶火に附せられ給ふたときに、あとに残つた佛舍利を八大國王が争ふて持ち歸つたといふことであるが固形上の遺品としてはたゞそれだけであつた。野尊とは眞如の化身、法身佛の應現であつたのである。

私たちが死ねば形として白骨だけが残る。無形のものとしては阿賴耶識だけが又來ん春を待つてあらうこと、識とは心のことであるこの表面的な意味からいへば『三界は唯心と白骨となり白骨の外に別の法なし』といふことになるが三界唯一心、心外無別法とはさういふ算數的なことを説明

したものでない、それを逆にして三界はこの心のつくるところである、心の外には何物もないといふことを説いたものである。

合服とレインコート

御召替の節です……キツト皆様の御氣に召す1933の春の新製品を豊富に取揃へ陳列して御座います。

新柄背廣	12.00
黒セル背廣	9.00
レインコート	9.00
バーバサ	3.20
トレンチコート	5.00

ふかや洋服店 平電 203

貸切の御用命は!!!

獅子吼(四四九)ノ勢デ
 マッサキ
 眞先ニ……(マッサキ)
 ミクニ
 三九二タクシーへ!!!

看護婦急派の求めに應じます

平町南町
 平看護婦會
 電話三〇七番

魚問屋

ウニヤキ 貝焼
 産土

最優最良 日本最大 生命平代理店 榮盛
 平町丁(電話一二三) 榮盛

旭硝子株式會社製品

赤菱印 板ガラス
 硝子食器 其他各種

松崎硝子製作所
 平町新川町(電話一四二番)
 支工場 仙臺市榮町(電話五九七番)

外科 X線科

安齊外科醫院
 平町田町
 電話四七五番

鹽豚 肉蒲鉾

田町 三三三三屋

待機中の鯉船

愈々出航

十五日千葉沖へ

石城郡江名町大型鯉船同町加澤一造氏所有萬勢丸外敷隻は最近鯉群北上の期に接したので目下いづれも同港内に入港し愈々本格的鯉漁獲に就業すべく船体の修理機關の試運転中であるが明後十五日頃は一齊に千葉

縣沖合に出漁すると

城山青年總會 平町 城山青年分團總會は来る十五日午後六時より聚樂館に於いて開會正副團長の選舉並に團則の改正等に就いて協議する

減額された工費の

切り盛りに苦心

各町村の匡救事業

石城郡下各町村より申請された本年度匡救事業工費は豊間村の廿萬圓を初め總額百八萬五千餘圓の巨額に達したが今回發表された郡制當工費は廿七萬と云ふ小額なので各町村共設計の縮小に多忙を極めてゐるが平町に於いても申請額六萬圓が僅かに九千八百圓の割當となつた結果堤ノ内地内縣道外七ヶ所の工事箇所は四五ヶ所に縮少されるので早くも地元民間では工事箇所の争奪に猛運動を行つてゐる

磐中生徒監

市内を二區分

磐城中學校にては此の程平町在住の生徒三百四十七名の監督を行ふべく是れを三區に分ち左の如く各教諭が監督する事になつた

平水水組合

けふ役員選舉

平水水組合では本日午前十一時より平署會議室に於て

- △一區 鎌田 六丁目 五丁目 新川町 月見町
- △二區 鍛冶町 材木町 研町 長橋 新町 紺屋町 平館(今) 名尾 梅森 高清水 菅野 吉田 廣木 中島 鈴木 柴田
- △二區 一丁目 二丁目

- 三丁目 四丁目 搔槌小路 古鍛冶 八幡小路 道匠小路 久保町 聚樂館(渡邊 樋口 大橋 山名 豊口 谷澤 河村 大村 沖原)
- △三區 大工町 仲間町 白銀町 田町 胡摩澤 北目町 四軒町 舊城跡 世界館(梶原 新谷 廣田 中柴)

「時」の記念宣傳

平町中小學校の催し

平町各中等學校及び各小學校にては来る六月十日の時記念日に際し各校長が夫々時の觀念涵養に關する講演をなすが第一小學校にては講演後五年以上の少年赤十字團員が町の街頭に出勤し通行人に一々宣傳ビラを配付し第二小學校にては家庭より學校迄の登校時間の測定を行ふと

牝馬の健診

畜産馬組合では来る十五日川前村字小白井で蕃殖牝馬の健康診断を行ふが十六日は同村上桶賣十七日は下桶賣等でそれを行はれる

平各小學校の

聯合學藝會

既報平町各小學校にては来る十五日午前十時より平第二小學校に於て開れる保護者會總會に於て聯合學藝會を催すが第一及び第三小學校の出演プログラムは左の

滿洲軍醫任命

加澤氏渡滿

平町加澤忠治氏次男道雄君は日大醫學部を卒業後東京警察病院に勤務中のところ今回滿洲國軍醫部二等軍醫に任命され来る十五日東京驛發渡滿するが約二ヶ月間奉天の日本赤十字病院に勤務後奉天靖安遊撃隊總指令部に從軍することになつた

平映畫界

△平館 トーキョー漫畫『ミツキーの浮かれ音楽團』日活現代劇廣瀨恒美峰吟子主演『海の横顔』松竹時代劇阪東好太郎飯塚敏子尾上榮五郎早晶子主演『鬼火』浦田現代劇大日方傳八雲恵美子上山草人主演『陸の若人』

平町人事

△二丁目三 當時石城郡内郷村字峯根 酒井四郎氏 二男伸次郎 △田町四六 市原三三男氏 長女泰子

關西の旅から

磐中修學旅行團

【平一東京】我々は宿題の達せられる喜びに胸をおどらせつゝ停車場に向つた。異状の興奮の爲に昨夜よく寝られなかつた様な顔がたくさん見える。先生方及び家族との間に『元氣で行つてきます』『氣をつけ行つてこい』との挨拶を交して『いよいよ修學旅行の途に着いた。車中は別に變つた事はなかつた。唯霞ヶ浦で見なれぬ飛行機の蜻蛉の様にはひるがへつてゐたのは我々の心に奇異の感を抱かした。水戸には先輩が多敷見送つて下さつた。

第二信

【山田市一外宮一内宮一二見一鳥羽港】『濱松』『ハママツ』と呼ぶ驛夫の聲に目が覺めた。『早濱松か』と身體に電氣が傳つた。或は富士を或は天龍富士川を見ざりしことを悔ひつゝ後を振り返つて見た。夜は深々と更けて其の中を賑かな列車が無情に走つた。汽車が豊橋に來た時には最早光明の世を得てゐた。名古屋を過ぎ時計が六時を示した時は早參宮線の上の人々と化した。未だ見ざりし内宮、外宮を聯想して夢か現の思ひで南へへと歩を縮めた。山田一其の時は九時一分前。先づ外宮へと歩を進む。鬱々とした神木、丸木作りの社殿共に我々をして旅行の夢より目覺めさせずには置かなかつた。次は内宮へ。

宮へ、五十鈴川の清流に或は心を或は身を洗ひ、そして參拜をした。其の後又バスにて伊勢海中の有名なる夫婦島。即ち二見ヶ浦を見學し、勇躍して伊勢海の良港鳥羽へと向つた。今夜の夢は花の大東京か。榮華の巷か。

渡邊正夫記

美味! 芳醇! 宗正らひた

山崎合名會社 電話一〇番

一冊の代金

御希望通りな

五冊の雑誌

自由に讀める

川崎文庫

電六三〇番 申込次第(規則書進呈)

實の父母を相手取り

身分確認訴訟

さこのう平支部で開廷

石城郡赤井村大字赤井字日渡百二十八番地船生新一、船生良榮、船生金平、同村宇田町百十六番地矢野正の四名は實の父船生演次郎母ハッヨの兩名を相手取り酒井辯護士を代理人とし平支部に身分確認の訴を提起した事件は昨日午後二時より平支部に於て中島裁判長係り關口、竹内兩判事陪席各關係者列席の下に口頭辯論開廷され事實取調の結果来る十九日判決言渡される事になつたが事件の内容は被告演次郎には原告新一の出生當時既に先妻ヨシとの間に出生したる長女ヤイ子があつたので被告の兩親なる船生淺次郎夫婦はヤイ子に將來家督相續をさせたい希望より後妻の新一を長男として入籍する時は右希望を達する事が出来ない爲め自己の六男として入籍順々に良榮を七男金平を八男として入籍したもので其後矢野正が出生したる時は既に老齡に達した爲め自己の九男として入籍する事が出来ず近親者なる矢野長藏に依頼し同人の三男として入籍したるものであるが昨年十一月守が出生するや被告演

次郎及びハッヨは自分の長男として入籍した爲め新一外三名は完全にオミットされ事實五男であるべき筈の守が相續權を獲得したので終へに訴訟沙汰になつたものであると

江名校醫嘱托

石城郡江名小學校では今回児童の虫歯豫防の爲め同町齒科醫山村哲衛氏を校醫に嘱託し去る十日に全校児童の齒科検査を執行した

未拂ひの米代は

驛員の共同購入

平區へ調停を申立つ

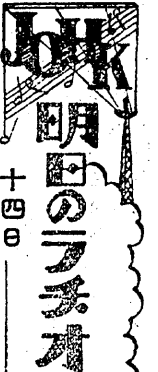
石城郡四倉町字本町百十八番地四倉驛員阿部藤吉は双葉郡長塚村字町二十二番地米穀商稲田善之助より平區裁判所に米代金二百三十二圓の請求訴訟を提起され此の程毎月貰ふ月給迄も押へられたので本日平區裁判所になんとか調停してくれと泣き付いて來たが申立書に依ると阿部は昭和三年二月頃より翌四年十一月頃迄驛長代理として驛員共同購入組合の擔任となり無報酬にて米の買ひ入れ等をなして居たが其間購入者の内には支拂はざるものもあつて前期の如く未済が生じたもので自分が借たものでなく目下の處家族八人もあり過半

主人の娘と

戀の道行き

平署へ捜査願

石城郡内郷村大字宮字金坂生れ吉田傳吉(三)は數年前より山形市置賜町三ノ五二染物業山田文吉方に奉公中昨年九月頃より同家の長女スイ(三)と人目を忍ぶ仲となり再三主人に結婚の承諾



明日のラジオ

今晩は北西の風晴曇相半し明日は南西の風一時曇

今晩の部

- 後六〇〇(子供の時間) 童話劇「ふぐ大名」お伽座
- 後六二五 ことばの講座 「外國語に就て」文學博士 市河三喜
- 後七三〇 講演 後八〇〇 ビアノ獨奏 小卷千代子
- 後八二〇 管絃樂 日本放送交響樂團 指揮宮原

明日の部

- 前九一〇 榮養料理献立 「辨當(十八)イワシのつ
- 後八三五 歌謡曲 唄糸 八才三三吉 三味鹿の子 九子外
- 後九〇〇 連續講談「難波戦記(終席) 旭堂南陵
- 後九三〇 時報 ニュー氣象通報 番組豫告

七百米リレー

平第一校の職員

昨報平第一小學校に於て來る二十七日の海軍記念日に會我校長指揮の下に開催す

- (A) 木口崎本三藤藤 黒樋松根伸佐齊 竹山正木政田野 水石松鈴松瓜丹
- (B) 我井村上米川伊 吉國中井根上坂 塚田谷川丸田藤 平横大古力大武
- (C) 平第一校の職員
- (D) 平第一校の職員

商人を引入れて

組合側と對抗

江名の漁用油問題

石城郡江名町の漁業家連は從來使用機船の重油を同町信用組合より購入しその金額は一夏二三萬圓の巨額に達して居るが最近四倉町の漁油商が組合品より一罐に付き十錢安の重油を供給してゐる事實を聞いた江名漁業家連はこの際四倉油商を江名町に入り込ませしめ組合

- くね煮」榮養研究
- 前九三〇 子供の時間 お話「鮎釣」齊藤善一
- 前一〇〇〇 宗教講話 「兜率三關」臨濟宗廣壽管長足利紫山
- 前一〇、四〇 講演 前一、一〇 講演 後〇、五〇 滿洲より 後一、二〇 但詠 後一、五〇 野球試合實況 「東京大學野球聯盟リーグ戦」早稻田對法政 明治神宮外苑球場より中継
- 後一、五〇 落語「百川」柳家小さん
- 後二、三〇 歌劇 關種子
- 後四、〇〇 大角力夏場所 實況(國技館より中継)
- 後六、〇〇(子供の時間) 少年講談「チ、キトク」三浦樂堂
- 後六、二五 趣味講座「海女の話と歌」海女濱口とめ子岡本みつる
- 後七、三〇(映畫の夕) 映畫劇「瀧の白糸」入江たか子 岡田時彦外
- 後八、一〇 映畫劇「港の日本娘」及川道子 澤蘭子外
- 後八、五〇 映畫劇「未來花」夏川靜江外

商業學校五十三名 磐城高等女學校 六十三名

にいていづれも近視眼であるが中には亂視の生徒もあり各校では是等の原因を詳細に調査中である

飯野産業組合

設立準備に奔走 既報石城郡飯野村では過般本年度經濟更生指定村とされたので目下同村有志間では産業組合の設立を行つて更生計畫の第一歩となすと

- △出前持 二十才前後 委細面談(平町某)
- △兒守 十四迄 月三圓位 委細面談(平町某)
- △女中 三十才 尋卒 給料面談(四倉町某旅館)
- △農夫 四十以下 尋卒 給料面談(小名濱町某)
- △回職を求める方
- △事務員 二十二才 高卒 給料面談(内郷村某)
- △小使 五十三才 中卒程度 給料面談(植田町某)
- △雜婦 五十才 尋三修 給料面談(平町某)
- △給仕 十五才 高一修 給料面談(平町某)
- △自動車助手 十六才 高卒 給料面談(平町某)

素剣

【禁轉載上演及映畫】

第三百三十七號

悟道軒 圓玉演
近藤 紫雲畫
上田 馬之助

早合點の文中

向島の料亭魚十で頼間の文中を相手に酒にひたつてゐた上田馬之助、前にも申した通り剣術の達人、それでありながら世間學にも通じてゐる、定府の武士として江戸ッ子です、酸いも甘いもかみわけてゐる

馬「文中、こゝへ連れて来たはお前の智慧をかける事がある、一骨折つてくれ」
文「畏りました、こんなところと申しては失禮でございますが、この寒さに向島まで出てお出になつた事は何ぞ曰くがあるかとわたくしも察して居ります」

馬「さうか、枯野を見ながらお前の力を借りるつもりでこゝへ来たが、これは内密話だ」

文「へえさうでございますか、それで姉さんにまくを切つて頂くことにしませう、オイ姐さん、一寸消えてなくなつて頂きたいな、殿様は御密談をなさるさうだ、漸次お次にお下り下さい」
女「左様でございますか、御用がございましたならば手をなまして頂きます」
今ならば柱のボタンを押

して下さいと云ふ所
文「心得た、では皆のもの次に下れ」
女「むづかしいお話でございます、之を聞いて上田が」
馬「江戸中の井戸に毒を流



して御本丸へ火をつける事に就いての相談だ」
女「オホ、……」
と笑つて
女「まあ飛んだ由比正雪でございますね」
と云ひ捨て、女中は出て行く、あとは二人對座
馬「まあ一つやれ」

文「旦那のお酌では恐れ入りますね、時に何う云ふ御用でございますか」
馬「この事はなお前の方でなければ出来ぬ事だ」
文「判りました、モウ何ものたまふ事勿れ、万事は拙者が心得て居ります」
馬「ウーム、俺の頼むことを察したか」

かし旦那、妙なものでございませぬ、實に世の中の事は不思議でございます、花魁衆や藝妓衆は親のために泥水を飲んで居ります、して見れば親には怨みこそあれ有難いとは思へませぬ、ところがその子不孝な親を大事にします、又花魁衆や藝妓衆に熱くなる若い人は慈悲深い親を持つてゐる方ばかり、して見れば孝行をしさうなものですがこれが親不孝、何う考へてもこの理窟が判りませぬよ、ところであなたがお氣に召したあのおはる姐さんはまだ一度も浮名を立てられたことはいまありません、あの子の親父に掛合つてこの事を纏めませう、親父は三輪の裏舊地藏の傍に居りまして上野の山下で蟻の壺焼を賣つて居ります、元は相當な商人でございますが、酒が好きで家藏から地所まで飲んでしまひ、残つた一人の娘、それをお前さん一兩一分で藝妓家に賣りまして飲んでしまひました、大きな口があるもので家から藏から娘まで飲むとはウワバミなればとてこんなにはおめませぬや、親父に金の二十兩も遣れば何んとでも話はつきます」

二日はお話で
お客様の御機嫌を取り結ぶ剛の者でございます、あれであの藝妓は氣立が優しいそれに親孝行で八つの時に一兩二分で藝妓に賣られましたが、その親を怨まず今以て孝行し、居ります、し

馬「それは文中お前の眼鏡が違つた」
文「へえではおはるさんではない」
馬「俺は藝妓や女郎を根引して妾にしようと思ふそんな汚れは心はない」
文「それではどんな事でご

ざいます、まさかに敵討の助太刀をお頼みなさるわけでもありませんまい」
馬「イヤこう云ふわけだ、佐野権で今日も遊んでゐる緒方新三郎の寺についてお前の智慧を借りねばならぬことがある」
文「ア、さうでございますか、緒方様のことで、ねえ旦那、緒方さんの遊びは叶けません、あゝ吉原にばかり入り込んで叶けません少しも風流なところがございませぬ、遊ぶにも四十八通りございませぬ、上は來ず中は晝來て晝歸る、下々の下客が流連をする、あんな遊びは叶けません……」

三井タクシ

平町二丁目

木村科醫院

平町五丁目橋際
電話三〇九番

内科・小兒科・花柳病科

藤沼醫院

入院需應

平町紺屋町
電話五〇七番

家政婦

御申込次第早速お手傳ひに
料金は極めて低廉です
平町紺屋町二(電呼六五二)
上原家政婦會

平新川町十九

木村病院

電話一六四番

外産婦人科
婦人科
内臓外科
整形外科
器泌尿科
院長 木村寅次郎
醫學士 内木宗八

耳鼻咽喉科専門

氣管食道科

平南町(電話一七〇番)

大和田醫院

耳鼻咽喉科専門

平町七〇番地
山内醫院
醫學士 山内亨吉
電話六九一

應入院
山内醫院